

Vol. 22 / 2019年5月7日発行

おばちゃん通信

発行：おばたさおり/横須賀市池上 2-14-10 田中ビル 01/TEL:080-1161-4031



4月21日に投開票が行われた市議会議員選挙にて5990票（2番目の得票数）を得て、当選させていただきました。公職選挙法上、御礼を申し上げることはできないのですが、市民の皆様を支えていただいていることを忘れず、2期目もしっかりと活動してまいります。

また、これまで所属していた会派の無所属みらいと、研政は解消しました。市民の福祉の増進を最優先に考え、市民代表としての自覚を持ち、市民の声に耳を傾け建設的な政策提言を行うという理念のもと集まったメンバーで「よこすか未来会議」という新たな会派を結成しました。今回の通信では、選挙前に行われた3月定例議会の報告や皆様からいただいた市政に対するご意見を紹介します。

<平成31年/令和元年度予算に対する無所属みらいの代表質問（永井議員が行いました）>

問：令和元年の当初予算は3300億円を超え、一般会計は1665億7千万円で、前年度より約111億円の増であり、過去2番目の規模の予算である。市債は49億円増え、財政調整基金（自治体の貯金）の取り崩し額は昨年度から14.4億円増の56.3億円にのぼる。また、財政基本計画の中では、2024年度以降には財政調整基金が枯渇してしまう可能性も示されているが、具体的な財源確保策はあるのか。

答：計画策定時に見込んでいなかったマリノス練習場の整備などがあるが、使用料が見込める。一時的に借入額が増えるが問題ない。また、補助金だけじゃなく、民間の資金も活用する。財政というと固定観念で考えがち。だからこそ楽観的に考えるべきである。



問：小幡議員が以前一般質問した複合的な課題を包括的に相談できる総合相談窓口だが、今回の予算でその設置にかかる検討に予算がついている。平成31年度、具体的にどのような検討をし、今後どのようなスケジュールで総合相談窓口の設置を進めていくのか。また、新年度予算では、田浦行政センターに地域担当職員を置くこととなっているが、どのような役割を担って行くのか。

答：地域のネットワークを構築し、新たな担い手の養成を、市社協とともにしていく。平成31年度は関係部局を集めたプロジェクトチームをつくり、2020年度に設置する予定。田浦の地域生活相談担当は、どんどん地域に入ってってもらい、課題を解決する。継続して解決するにあたるものは地域と協力してやっていく。

問：建設予定地が二転、三転してきた（仮称）中央こども園。今回、築40年弱経過した職員厚生会館を改修して整備する案を出してきた。これまで新築する立地を探してポートマーケット駐車場の一部を選定し議論してきたが、既存の施設を改修する計画が突如現れたことは、これまでの用地選定の前提が崩れることになる。他に最適な候補地がないか改めて検討されたのか。

答：横須賀中央地区の公有地で探していて、職員厚生会館のリノベーションが一番と判断した。子どもたちにとってベストだと判断した。

問：市長は昨年9月定例議会の小幡議員の一般質問で、「1日も早い待機児童解消に努める」という答弁をされたが、現状として、待機児童ゼロには至っていない。待機児童の解消はいつまでに達成されると考えているのか。また、政府は幼児教育・保育無償化のための子ども・子育て支援法改正案を閣議決定した。本市においては、3～5歳児は原則全世帯、0～2歳児は市独自の施策を合わせて年収約500万円未満相当の世帯について無償化をしていくわけだが、まずやらなければならないのは待機児童の解消だ。幼保無償化の実施により待機児童数がこれまで以上に増えると想定されるが、どの程度影響するとお考えか。

答：小規模保育事業所で定員を増やし、企業主導型の地域枠も利用していく。保育料の無償化によりどの程度増えるのか、影響は読めない。現時点では待機児童解消の具体的な時期は言えない。今後既存保育園の分園や幼稚園の認定こども園化を進めていきたい。



問：新年度の放課後児童健全育成事業には7億3千万円が計上されており、過去最高となった。額が増えている割には親御さんの負担減に繋がっておらず、放課後児童対策は十分とは言えない。市長はこの点をいかがお考えか。予算額が上がった一つの要因は公設学童クラブの設置である。市長は公設学童クラブを設置することで、どこにどのくらい予算がかかるのか見たいとのことだが、そうした分析を民設民営の学童クラブにどのように反映させていくつもりか。

答：学童クラブが増えたので、予算も増えた。運営面での課題を抽出し、整備していきたい。保護者負担の大きい学童について、民設民営が困難ならば公設にすることも検討している。みんなが負担を抱えているのはわかっている。どうやって補助すればいいのか検討してきた。これまで運営してくれてきた方々には敬意を示している。どういう部分で運営が難しいのか、今回の公設学童を試行することで見極めたい。

<皆様からいただいたご意見を紹介します>

・受動喫煙の防止に力を入れて欲しい。

→以前一般質問でも取り上げた受動喫煙の防止。神奈川県では平成22年に「神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例」が施行されたが、屋外は対象外です。横須賀ではポイ捨て防止の観点から横須賀中央駅周辺を路上禁煙地区に指定、また市内全域での路上での喫煙自粛、としています。駅周辺のみならず、通学時間帯やイベントでの規制など、啓発に終わるのではなく、子どもたちを含む市民を受動喫煙から守れるような制度を求めていきたいと思えます。

・雨の日だけでなく、夏の暑い日も子どもが外で遊べない。屋内施設が欲しい。



→以前無所属みらいの議員の一般質問に対し、「雨の日は軒下で遊べばいい」と市長は答えました。しかし子育て中の親子や、子どもたちが求めるのは横浜市のログハウスのような、屋内で思いっきり遊べる場所です。子育て中の親子の孤立を防ぐためにも、「遊び場」の整備も重要です。今後もその必要性を引き続き訴えていきます。

おばたさおりプロフィール

1985年10月3日生まれ。平作小、池上中、横浜市立金沢高校卒業。UCLA政治学部卒業。学習塾、フリースペース勤務を経験。2015年横須賀市議会議員選挙にて初当選。会派：よこすか未来会議
移動事務所：080-1161-4031または info@obatasori.com ブログも更新中です！